

報道関係者 各位

令和7年7月4日
宗像市 秘書政策課



国際交流「JAL スカラシッププログラム」 アジア・オセアニアの学生と大島学園が交流

アジア・オセアニア地域の若者を日本に招待し、国境を超えた相互理解を目指す「JAL スカラシッププログラム」の一環として、海外の大学生25人が宗像市大島の中学生と一緒にワークショップを行います。

世界遺産「“神宿る島”宗像・沖ノ島と関連遺産群」は海との関わりが深く、自然と信仰の関係や、漂着ゴミや生態系など海の環境を学ぶのに適したフィールドです。今回の活動は、宗像地域で調査研究を行う九州大学大学院・清野聡子准教授や地域で活動するNPO 法人改革プロジェクトの支援のもと実施し、清掃後のワークショップでは、海岸で拾ったごみを「海ゴミモンスター」として、そのゴミがどのような経緯で大島に漂着したか、どうすればゴミが発生しなかったかを想像し、そのストーリーと対策を議論していきます。

海外の学生にとっては実践的な海のSDGs活動を体験する場であり、大島の中学生にとっては貴重な国際交流の場となることが期待されます。

【大島学園と交流 プログラム概要】

日程 7月7日(月)14:00~16:00

場所 大島学園

内容 大島学園とのワークショップ

参加者 アジア・オセアニアの16の国と地域から25人

大島学園6年生~9年生 14人

※ご取材いただける場合は、事前に下記問合せ先までご連絡ください。ご取材時の島内での移動のサポートをいたします。

※当日は大島学園との交流のほか、午前中にさつき松原での海岸清掃、渡島後は宗像大社・中津宮参拝や民宿つわせ付近の海岸清掃を予定です。ご取材希望の場合はご連絡ください。

【JAL スカラシッププログラム】

1975年に日本航空が創設。1990年に発足したJAL財団が運営を引き継ぎ、これまで1,707人が参加。今年度は15日間、オンラインと現地フィールドワークを開催。7月2日~16日までの間、宗像市や東京を拠点に、自然と信仰の関係、海の環境問題の現状解決に向けた取組事例を学び、日本への理解や国境を越えた相互理解を深める。

【問い合わせ先】

宗像市秘書政策課 担当:一番ヶ瀬 TEL:0940-36-1055